いたちかわらばん

通刊33号　鼬川・独川 / 川原番・瓦版　06 春号

（版画　宗森英夫）

（いたち川橋）

いたち川のホタル

六月初旬からいたち川の水辺や市民の森にホタルがポーポーと飛びかい、わたしたちの心をなごませてくれます。ところが、毎年ホタルを観測している方の話によりますと、ここ数年でホタルの数が三分の一に減少したとのこと。一方、インターネット情報などでホタルの見物人はうなぎ登りに増えています。今年もイベント会場のような大混雑が予想されます。

ホタルは環境に過敏な生きものです。このままですと、栄区のホタルは絶滅してしまいます。皆さまからも、お友だちや知り合いの方に次のようなマナーをお伝えいただき、ホタルを守っていただけないでしょうか?。

○**ホタルは光に弱い**　懐中電灯、ヘッドライトは持ってこない。特にケータイでの撮影は、目に余るものがあります。

○**ホタル狩り**　とんでもないことです。説明はいらないですよね。見物人はホタルの数の何十倍です。

○**飲み物のポイ捨て**　ドリンクの空き缶、ボトルは、虫や小鳥のすむ水辺環境をよごします。

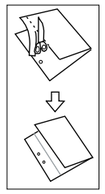
○**コースからはずれない**　コースから一歩でもはずれると、そこは生物のすむ水辺です。

○**路上駐車はダメ**　近所迷惑になるばかりか救急活動の妨げになります。バスできて家族そろってウォーキングしましょう。

（みっちゃん）

切り取り線

この部分を切り取ってファイルにすると便利です



笠間小学校がいたち川を「総合的な学習の時間」の題材として取り上げて７年になります。いたち川は、笠間小の子どもたちにとって、決して身近に感じる川ではありません。しかし､毎年子どもたちが、次の学年へとバトンをわたすようにしながら、いたち川にかかわり、いたち川を見つめてきています。栄区のはずれで､大船に近い笠間小の子どもたちは、いたち川を通して自然について学んでいるのです。

本年度は、３年生が「**いろんな発見！いたち川**」をテーマに、生き物発見グループ･昔発見グループ･川の様子グループに分かれて活動をしています。下流の様子と稲荷森付近の中流の生き物の様子を観察したり、水神様や石碑からどんな意味があるのか、いたち川とのつながりは何なのかを調べたりしました。

秋には、調べたことをもとに、かさまフェスタで「いたち川の音楽劇」を発表しました｡子どもたちは、洪水があったことや昔はたくさん生き物がいたことなどを劇にしたのです。自分で台詞を考え、いたち川のことについて書いている本で調べ、場面に合う音を作り、みんなでを力を合わせて劇をつくり上げていきました。見せたい・聞かせたい思いで子どもたちは劇を発表し、地域や保護者の方々に大きな拍手をいただきました。

子どもたちがなにげなく眺めていた「いたち川」も学習が進むにつれ、新たな発見・驚きが出てきました。今、子どもたちはどんな人がいたち川とかかわっているのだろうかということに目を向け、次の学習にとりかかっています。

「いたち川」を見つめることで、子どもたちが自然の大切さや人々の思いに気づき、さらに笠間のまちを好きになることができたらと願っています。

（笠間小学校教諭　　塩屋　俊春）

新しい橋が新しい風をはこぶ

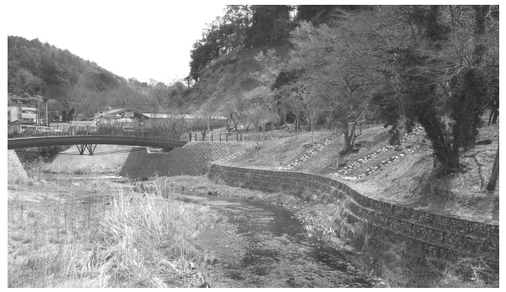
尾月橋周辺に「川と森をつなぐ新たな散策コース」が誕生した。環状４号線を公田から中野町を過ぎると右手にお椀を伏せたような上郷市民の森が見える。

この森といたち川との間に５０株ほどの小さな梅林がある。川沿いを散策するウォーカーも見過ごしてしまうようなひっそりとした場所で、手入れも充分でなく、主要道路側からは入れないという事情もあり、せいぜい地元のファンが森の深い緑を背景にした可憐な梅の花を楽しんでいた。ところが昨年より工事が始まり梅林も整備され、４月１日環状４号線と梅林をつなぐ新しい橋（石原橋）が開通した。

これまで尾月橋で引き返していたウォーカーが梅林まで足を延ばすことが期待できる。さらに梅林を抜け、尾月住宅の登り口から市民の森へ向かうアプローチも簡単になった。市民の森では名札の付いている樹木や野草を学びながら、富士山が一望できる清兵衛広場の展望台で一息いれ、竹林を横目に森を下ると反対側の紅葉橋出口だ。

先日、森でのボランティア作業を終えて改修された川沿いの梅林を訪ねてみた。いたち川からの風が汗ばんだ身体に心地よい。ヒトの気持ちとはおかしなものだとつくづく思う。どうしようもなく些細な日常に左右される一方で、風の感触や春の息吹で、こんなにも贅沢な気分になれるのだから・・・・。カワセミとキンケイギク畑で知られる尾月橋周辺に、いま熱い視線が注がれている。

（上郷森の会会員　　柴田　猛）



発行年月
2006年4月
通刊33号

発行：独川OTASUKE隊（いたちがわおたすけたい）

OTASUKE隊事務局：栄区役所区政推進課企画調整係　〒247 - 0005　横浜市栄区桂町303 -19
TEL 045 - 894 - 8161　FAX 045 - 895 -2260
栄土木事務所下水道・公園係　〒247 - 0007　横浜市栄区小菅ヶ谷 1- 6 -1
TEL 045 - 895 - 14 11　FAX 045 - 895 -1421
（お便り・お問い合わせは こちらまで）

アースサポーター・地球を守ろうプロジェクト
～ファイナルステージ・いたち川探検隊～　　飯島小学校

総合的な学習での取り組み

総合的な学習の時間に、地球を取り巻く環境問題について学習し、子どもたち一人ひとりが課題をもち、取り組んできた。大切なことは、自分たちにできることは何か、身近なことから実際に取り組むこと、名づけて「アースサポーター・地球を守ろうプロジェクト」が立ち上がった。

地球温暖化の仕組みや原因、水や大気の汚れ、酸性雨などの問題、省エネとは？、リサイクルの仕組みや必要性、環境にやさしい料理エコクッキングの実習・・・そしてまとめの学習として自分たちの生活排水が流れ込むいたち川の水質調査および生態観察に出かけた。

いたち川探検

いたち川が流れ込む柏尾川から、いたち川下流、中流へと水質調査をしながら歩いた。ガイドをしてくださったのはいたち川を整備された元栄土木事務所の和久井さん、そして学習のお手伝いをしてくださっている東京ガスの方々。いたち川沿いには、歴史を身近に感じることのできる史跡が数多く残されている。かつては「いでたち川」だった、という川の名前の由来に始まり、ポイント、ポイントに残されている史跡の説明に子どもたちは興味をもって話に聞き入っていた。かつては湿原だった新橋付近にまつられた水神様から、道標を通って海里橋へ。警察学校付近には下水処理場で処理された生活排水が、いたち川に流される様子を見ることができる。川は汚れているのだろうか。しかしその直後に本郷中付近で鮮やかな瑠璃色をしたカワセミ発見！この時季のカワセミの色が一番美しいらしい。城山橋を過ぎるとカモメの大群。カモメは海鳥では？、この時季いたち川に現れてしばらくするとぱったり姿を消すのだとか。

夢物語を感じて・・・

区役所に向かう川の中に石でできた３匹のいたちの親子を見付けた。川の中の石、一つ一つには川を守るために意味があると説明を受けた。水の流れを変えるのに必要だそうだ。そのための石をいたちにしてしまうところにロマンを感じる。そのロマンは区役所裏の大いたち橋・子いたち橋へと続く。橋に化けたいたちの伝説。果物を囲んでの晩餐会を思わせる動物たちの足跡のストーリーに、子どもたちは目を輝かせていた。将来子どもたちが社会に出て仕事をするときに、この素敵な夢物語を忘れずにいてほしいと思う。川原で見付けたオナモミを体にいっぱいくっつけて自然の楽しさを存分に味わった。

生態観察と矢沢堀小川アメニティー散策

六反町公園では胴長をはいて川に入り、生態観察をした。１月で水温も低く、生き物がいるとは思えなかったが、石の裏にはミズムシ、カゲロウの幼虫、ヘビトンボの幼虫、テナガエビ、マハゼ、クロメダカなどさまざまな生物を観察することができた。初めて見る生き物たちに驚きを感じながら、興味深く図鑑でその名前を調べていた。

矢沢堀小川アメニティーでは群生しているクレソンを試食して大喜び。その後も食べられる葉が意外と多いことを教わり、また一つ散策する喜びを見付けたようだ。中にはムラサキケマンのように全草猛毒のものがあるから注意しなければならないことも知り、自然と付き合っていくには知識も必要だということを学んだ。

環境問題についての学習のまとめとしていたち川を歩いたが、地域を流れる川が身近な存在になった。自然に触れながらその楽しさやおもしろさ、不思議さを生活の中で体験することが、自分たちの環境を守ろうという気持ちを育てることにつながるのではないか・・・いたち川を探検しながら思った。

子どもたちの作文より

- いたち川の水はきれいに見えても、下流は違いました。そのわけは私たちの生活排水などのせいでした。人間が汚してしまった川は、人間がもどすべきだと思います。
- ホタルがカワニナを食べる。カワニナはクレソンを食べる。食物連鎖の法則が自分たちの生活に関係しているということが分かったことが、一番の発見でした。
- 植物に興味をもちました。ユキノシタという植物は昔の人が薬がわりにしていたそうです。全草猛毒の植物が身近に生えていることも知りました。
- いたち川ではいろいろなことを大切にしていました。たとえば魚道では毛布･コンクリート･毛布と重ねて、魚が川を上りやすくしていました。
- いろいろな生物がいてちょっとびっくりしました。いたち川でいろいろな発見をしたので、夏にも川に行ってもっといろいろな生物の観察をしたいです。

（飯島小学校教諭　　山浦　美登里）

リレートーク 29

夜のいたち川

夜のいたち川：などと書くと演歌の題名のようでおかしいのだが、日中にはカワセミが飛び、水鳥や鯉が泳ぎまわっている川が、夜はいったいどんな表情を見せるのだろう?と興味をもった。

川沿いの道に、栄区自慢のソーラー省エネ照明灯が設置されている。暗くなれば自動点灯する。一般街灯よりも背が低く、配置間隔も適当な白色LEDの光が路面を効率よく照らしている。そこで、少し川縁を歩いてみると・・

犬を散歩させている人がいる。暗くてその表情は見えないが、信頼のリードで結ばれた人と犬は幸せな顔つきをしているに違いない。

向うからくるランナーは、健康増進のために仕事を終えた身体に鞭打って走っているのだろう。つむじ風のように走りぬけて行った。

無灯火の自転車乗りが来た。危ないじゃないか!ライトを点けろ!・・と声を挙げそうになるが、相手はこんな時刻に邪魔な歩行者は居ないと決め込んでいるのかも知れない。

夜になれば、草木は光合成の役務を終えて、穏やかにひっそりと安らぎの時を迎え、鳥たちはねぐらに帰って一日の疲れを癒している。夜の川は、静かに自然のありのままの姿を見せている。

しかし、本当にそうなのか?静かにしているのは紛れも無いが死んだように休んでいるのだろうか?どうもそうではない気もしてくる。

夜は「川が再生のために活動している時」なのではないだろうか、という思いが湧いてくる。日中は、注入する色々な雑排水や様々な廃棄物によって汚された川が、夜は源流から滴りくる清らかな水や湧き出る地下水や、微生物による分解作用などによって、川本来の姿に立ち帰る時ではないのだろうか?もしそうだとすれば、それは正に静かなる活動の時間であって安穏に休んでいる時間ではないことになる訳なのだが・・

そんなことを考えている内に夜が明けてしまえば、いたち川は川面をキラキラと輝かせ、若々しい水音を響かせながら我々生物たちを迎えてくれているではないか。ありがとう！（ピンテール）

いたち川で見られる植物 8

ショカッサイ

春と共にいたち川周辺にも様々な植物が芽吹き、花も次々に咲き始めますが、中でも、かなり目立つのがショカッサイです。

アブラナ科の植物で、中国原産の外来種ですが、野生化して広範囲に分布しています。別名ハナダイコンと呼ばれますが、正式の和名はオオアラセイトウです。

茎は直立し、一〇～五〇センチになり、径二～五センチの紅紫色または淡紫色の大きな十字状花を三～五月に開花します。

（いもり）